

# ネズミの嫁入り

大昔のこと、ネズミの夫婦に娘が生まれ、やがてたいそう美しく成長しました。「こげな器量よしは、世界で一番偉か人の嫁にやりたいもんじゃね」。

「じゃつどねえ。誰が一番偉かかねえ」。親ネズミはいろいろと話し合い、「一番偉かのは、やっぱりお日様じゃろう」ということで、早速、出掛けて行きました。

「お日様。実は、私たちの娘が、親の口から言うのも何じゃが、よか器量じゃつどなあ、世界一偉か人にもろうて（もらつて）ほしいと思ちります。どうか、あなたの嫁にしてたもんせ」。

しかし、お日様はこう言いました。

「私より偉いのは雲さんですよ。いくら私がかんかん照らしても、雲さんがさえぎればすぐ陰になってしまいますからね」。

そこで、親ネズミは雲の所に行きました。「あなたにはお日様もかなわないそう、世界一偉か人じゃと聞つました。うちの娘を嫁にしてたもんせ」と



頼みました。

すると、雲は、「私より風さんが偉いですよ。風さんはお日様を隠した私たちを吹き飛ばしてしまいます」と言います。

親ネズミはなるほどと、風の所に行つて、「あなたは、お日様よりも、雲よりも偉かと聞つました。うちの娘を、どうか、あなたの嫁にしてたもんせ」と頼みました。すると、「いやいや、私よりも壁さんが偉いです。いくら私たちがビュウビュウ吹いても壁さんは通してくれません」と風は言います。親ネズミはそうだなと思つて壁の所に行きました。「うちの娘を世界一偉か人の嫁にやりたいのじゃが、お日様より雲、雲よりも風、風よりも壁さんが偉いと聞つました」と言つと、「私たちよりネズミさんのほうが偉いですよ。私たち壁がどんなに硬くても、かじつて穴をあけますからね」と壁は言いました。

そこで、器量よしの娘は同じネズミ仲間嫁入りすることになったそうです。



（原話 南さつま市大浦（おほつら）葛山民俗「八号」）

文／有馬英子 絵／二石綱夫